学習院大学目白キャンパスの歴史ある建物の保存と活用

学習院大学目白キャンパスでは、明治から令和までの時代を映す建造物が存在している。平成21年(2009)に正門、厩舎、乃木館、北別館、東別館、西1号館、南1号館の7棟の建造物が国登録有形文化財に指定され、現在本学では保存活用が認識されるに至っている。

〔図1〕学習院大学図書館　ひじ付椅子が置かれた1階ロビー　1963年

しかし、それ以前は各建造物に対しての重要性があまり顧みられて来ず、古い建物があいついで姿を消していったことも残念ながら事実である。学習院大学史料館(以下、当館)では、今後の保存活用に対する危機感から、平成11年(1999)に文化財建造物の保存と活用を専門とする東京理科大学工学部建築学科・伊藤裕久教授に調査を依頼し、一連の建物の近代的学校建築としての重要性が実証された。

その結果を基に展覧会・講演会を開催したり、ミュージアム・レターなどで特集を組む等の広報活動を地道に重ねた結果、国登録有形文化財の指定という形で保存活用に繋げることが出来た。

現存する前川建築 ―北1号館、南2号館、大学図書館―

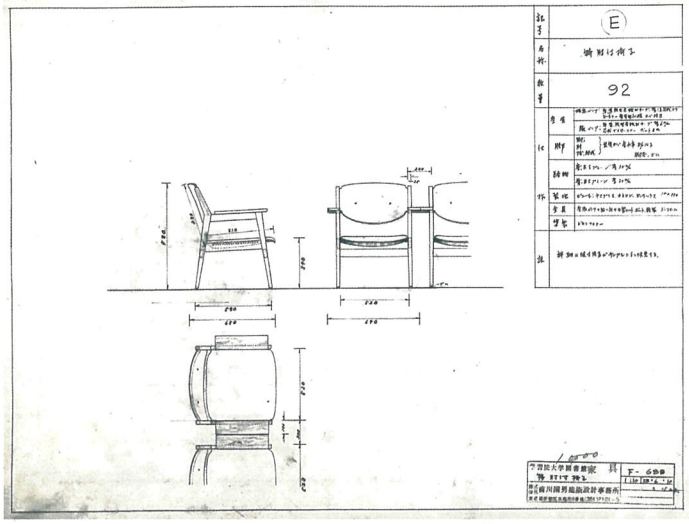
昭和34年(1959)から建築家・前川國男が手がけた建築群についても無論保存活用の対象である。前川によって目白キャンパスには、本部棟(昭和35年)、政経文学部棟・北1号館(同年)、理学部棟・南2号館(同年)、ピラミッド型大教室・中央教室(同年)、大学図書館(昭和38年)、計算機センター・南5号館(昭和58年)、男子高等科部室(昭和60年)の7棟が誕生し、本部棟と中央教室を除く5棟が数度の改修を経て現在も使用されている。

また、建造物だけではなくピラミッド型大教室の部材や調度品についても保存活用がされており、ここでは大学図書館を例にその一部を紹介する。

キャンパスプランにおいて前川は建築そのものだけではなく照明、配電ボックスやドアノブ、机や椅子、ごみ箱といった細部の調度品にまでこだわり、デザインした。下図の2種の椅子図面は大学図書館のために作られた。

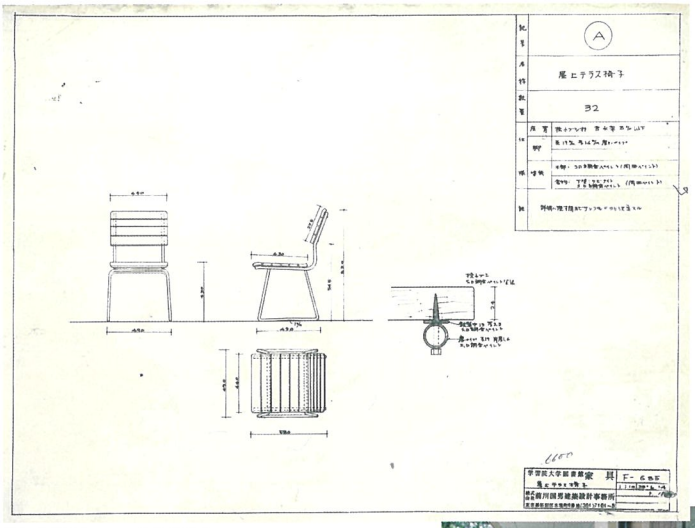
「特肘付椅子」〔図2〕は手すりと背もたれのある低めの形状で、体を包みこむように丸みを帯びた座面と、背もたれには少し緑がかった深い暗青色のビニールクロスが貼られている。両手のひじ付部分は木製であたたかみを感じる仕上げである。この椅子は長年使いこまれたことで照りと色の深みが増し、一種の工芸品のような美しさを湛えている。

「屋上テラス椅子」〔図4〕は、開館当初、屋上テラスに置かれた椅子で、澄んだ水色に塗装されている。キャンパスの賑わいから少し離れた緑の木立に佇む図書館のどっしりした外観と落ち着いたテイストの調度品に囲まれて重厚感のある雰囲気の館内から、読書の合間にテラスへ出てこの椅子に座って外の空気を吸い、木々の葉音に耳を傾けることが出来る。



〔図2〕「特肘付椅子」図面

〔図3〕2021年10月開催の学生による朗読会第6回〈声でつむぐ辻文学〉『北の岬』でも使用された



〔図4〕「屋上テラス椅子」図面

〔図5〕大学図書館2Fバルコニー　2021年

未来へつなぐ取り組み ―建物の持つ「記憶」を伝える―

当館では、これまで紹介してきた目白キャンパスの建物のほか明治10年(1877)の開校以来、学習院が使用した神田錦町、虎ノ門、四谷キャンパスについても調査を行ってきた。調査を進める中で、建物そのものの保存もさることながら、それらが持つ「記憶」も後世へと繋いでいきたいという思いが生まれ、建物内外の現地見学会や講演会、展覧会などの開催を通じて伝承の機会を設けている。令和4年(2022)春には、四谷時代の学習院についての企画展を開催予定である。(「揺籃期の学習院－四谷校地のころ－」展/3月28日～6月3日)

また、国登録有形文化財指定を記念した『学習院 目白の学び舎 学内に遺る歴史ある建築』(平成22年/丸善プラネット)や文化財としての校舎の改修工事の全記録である『学習院 南1号館 再生した旧理科教場』(平成25年/同上)など出版物の発行も積極的に行い、建物の魅力をまとめた。近年では、上皇陛下(当時皇太子明仁親王殿下)ゆかりの寄宿舎であった小金井清明寮(昭和24年)と目白清明寮(昭和26年)について戦後の学習院が置かれた混迷とした状況を象徴する建物として紹介した(「学習院大学史料館紀要」第22号、第24号)。

前川建築についてもキャンパスの中心にあったピラミッド型大教室の解体過程の定点撮影を記録として残した『学習院キャンパス写真集 ピラミッド校舎の記憶―前川國男作品・中央教室―』の刊行や、建築部材の調査・研究の結果をまとめた展覧会で情報発信した。

さいごに、歴史的建造物を守り伝え、活用するために行ってきた活動の中から、キャンパスツアーについて紹介する。目白キャンパスは、開校から113年経た今でも当時とほぼ同じ自然と地形のまま各時代を映した建造物を有しており、「キャンパス全体が巨大な博物館である」とも言われている。ツアーでは、学芸員が学習院の歴史を説明しながら、目白キャンパスの建物や学習院の歴史を語るうえで欠くことはできない石碑などの「ミュージアムピース」を案内する。建物の外観や特徴を説明するだけでなく、参加者がその中を実際に歩き回って外を眺めたり、部材に触れたり、建築空間を身をもって感じていただける機会となっている。

(史料館学芸員 冨田 ゆり)

※現在は感染症拡大防止のため、キャンパスツアーは中止しております。

〔図1〕 撮影／渡辺義雄
〔図2〕〔図4〕 資料提供／前川建築設計事務所
〔図3〕〔図5〕 撮影／滝澤国敏

ミュージアム・レター第47号
令和4年(2022)2月15日発行
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
電話 03(5992)1173
FAX 03(5992)9219
Gakushuin University Museum of History
学習院大学史料館
https://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua